

琵琶湖ヨット倶楽部 週報 (10-4-14)

麗春

雪

空は限りなく晴れどなる、比良や武奈の頂には処所に雲が珠玉にたまりて七瀬南は中春だ。昨日までの不順な気候も今朝から一変してゐる。サンサンと注ぐ陽光にカゲロウが燃えてゐる。尺餘に伸びた麦は田毎に青さを増して行く、菜の花は六分の咲きを見せこめる、玄圃の桜も二三輪花を開いてゐる。柳も芽をふいて来た。空はコバルトに、水は玲瓏、ちりめん模様を連を立してゐる。

早朝の燕が来て電線に群れどなる様は空中に樂譜を運きたれたやう。空高く雲雀が舞って忙しく鳴いてゐる。山登りの上空には一羽の鷹が悠々とループを回して廻るやかに pecker と鳴く。正午、田中の諸氏が油取北に寄つて艇の fitting out をやつてくはしてゐます。之が四月七日の正午の情景でした。

稍西に廻り、日光を浴びて限りなく晴れた青空にクッキリ浮じ上ったホテルの煙はまた新しい感じを出して居ます。神の方を重リトントンと云ふ、東の船の音がする以外に cherry beach は静かです。ペン塗り工事も休憩です。ジツト沖を見こめた由連中もサト吹く風に耐へられず、併に二三艇を搬装して一軒に出帆した。茶々時、紺屋の周方面から五、六艘出帆した。人の気は皆一つだと思ひます。

と見るも飛行機のエンジンが如きうなりを湖面に漲らせて一艘の快艇が飛沫を上げて浜大津沖を疾走してゐます。26-28 哩位のスピードでせう。先こぬる此の取つての一刻の餘興です。長く続けられれば不快ですが。我等のヨットはそんな下りに南原を四艇が隊伍を組んでヌーバーを走ります。之が四月七日午後二時の景です。

岡本専藏君のおめでた

"Young good old fellow" と云はれた我等の敬愛する岡本専藏君は今般而結婚を遂げられた。未だ令夫人の御名前も存りませんか(筆者忘慢にて) 御家庭の御幸福を心から御祈りする次第です。一同の名にて甲斐の邸として"腕時計"を贈つて喜ばれました。

見ぬ Fine Play

同志社が二年間愛用した艇を、阪大と南大と京大とへ一艘づつ譲るとの話を知りて其の fine play に感心した私達は遂に其の fine play は見る事が出来たりした。私達は其の取組を聞いただけで fine play を想像して、勝手に感心したのでした。いざ ~~は~~ ゲーム開始となつて南大は"軟球"でと云ひ張ります。同志社は

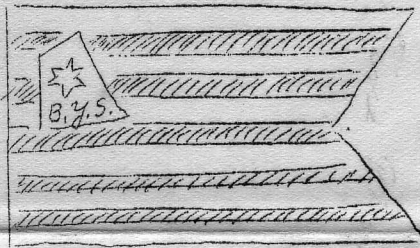
“硬球でなければいよいよ、軟球で回数が多いのはやらばやめた”と云ひ
 出しました。モトモトゲームの法だけで、使用の球や回数の法が定めて無かつた
 のですから、fine playを想像した方が悪かつたのでせう。
 對岸大との餘波を喰つたのでせうか、對岸大とのゲームも取消を同志
 社から申出たのを、そうです。私達は感心しただけが損、と云ふ事に奇ります。
 然し引續き湖上には青帆が走る事になりました。

對神戶高等商船学校

今年早々決めたスケジューには四月十四日に神戶高等商船学校、端艇部
 を招待してレースをする由になつておますが、未だ艇庫が出来ない
 ので延期方を濱方から神戶高等商船へ依頼しました。そして四月廿八日
 とするか、五月五日とするかは神戶からの返事によつて決めます。

Biwako Yacht Schule

B. Y. S. では本年の躍進を期してありますが、昨秋末の霧集りであった
 旗が出来ました。春空にハタメイテある標は實に明朗です。



近日中に B. Y. S. 及 D. Y. C. 各専用の
 flag pole が出来る見込です。
 B. Y. S. では本年の孟春初夏の交から大活
 躍をなすべく松本、宮橋の諸氏はオサオサ
 準備を厲かんでゐます。

同志社諸君の献勞

學年末から新學年までの休暇を利用し吉本君が主となり木村孝雄、土田、
 平野君の協同と共に fitting out を各艇にや、てくれとあります。感
 謝に耐へるべし。

鈴木 英吾

三月四日夕刻急激に寒熱さして以來安靜の養生を續けておられぬ。昨今
 猶微熱がとれぬないのので、日中は日々に快方に向つておられぬ
 そうです。充分の申養生によつて前に増した健康を再び失はぬ
 ことを心から祈ります。

艇庫

包むなごとい再建が遂げられたか、今月二十四日頃には出来上る筈です。

昭和十年四月十二日 (担当者 岩崎)